

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2020年度)

専門分野区分	簿記会計	科目名	原価計算 I	科目コード	T1810A1
配当期	前期・後期・通年	授業実施形態	通常・集中	単位数	4単位
担当教員名	河本 順子	履修グループ	2I(BO)	授業方法	講義
実務経験の内容	企業における実務経験、また約10年間大手銀行系列会社でのデータベース構築経験、企業や官公庁への出講経験を活かし、簿記・経理の実務やオフィスアプリケーションの活用について実践的に講義する。				
学習一般目標	原価計算は製品やサービスを提供するためにかかった費用を計算することである。原価は、材料費や社員の労務費など製品・サービスの提供のために発生する費用、販管費や家賃なども含まれる。企業で原価を把握することは、商品の販売価格の決定や経営計画にまで影響を与えるため非常に重要である。本授業では、日本商工会議所主催の日商簿記2級(工業簿記)の基礎から応用レベルの知識を修得し、実務で活用できることを目指す。				
授業の概要 および学習上の 助言	工業簿記の基礎 製造原価の詳細 分類ごとの計算方法 問題演習				
教科書および 参考書	教科書：サクッとわかる日商2級 テキスト 工業簿記 ネットスクール出版 サクッとわかる日商2級 トレーニング 工業簿記 ネットスクール出版				
履修に必要な 予備知識や 技能	1年次後期に学習した工業簿記の知識を有していることが望ましい。				
使用機器	電卓				
使用ソフト					
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が達成すべき行動目標			
	1・2	製造原価の定義、製造間接費の配賦を説明できる。			
	1・2	総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算及び個別原価計算ができる。			
	3・5	授業に意欲をもって取り組むことができる。			

達成度評価	評価方法	試験	クイズ 小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計	
	総合評価割合	50	10					40	100	
	学部 D P	1.知識・理解	30	10						40
		2.思考・判断	20							20
		3.態度							20	20
		4.技能・表現								
		5.関心・意欲							20	20
評価の要点	評価方法	評価の実施方法と注意点								
	試験	定期試験期間中に試験を行う。								
	クイズ 小テスト	授業期間中に小テストを行う。								
	レポート									
	成果発表 (口頭・実技)									
	作品									
	ポートフォリオ									
	その他	授業態度 (集中して授業を受けているか) 及び授業参加 (積極的に発言しているか) により評価 する。								

授業明細表

回数/日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1週 4/8	オリエンテーション 第1章 工業簿記の基礎 1~4節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第2週 4/15	第2章 費用別計算(基本編) 5、6節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第3週 4/22	第2章 費用別計算(基本編) 7~9節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第4週 5/13	第3章 製造間接費の配賦 10~12節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第5週 5/20	第4章 総合原価計算の基礎 13~15節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第6週 5/27	第4章 総合原価計算の基礎 16~18節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第7週 6/3	第5章 総合原価計算の応用 19~21節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第8週 6/10	第6章 標準原価計算 22~24節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第9週 6/17	第6章 標準原価計算 25節 第7章 CVP分析と直接原価計算 26節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第10週 6/24	第7章 CVP分析と直接原価計算 27、28節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第11週 7/1	第7章 CVP分析と直接原価計算 29、30節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第12週 7/8	第8章 個別原価計算 31、32節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第13週 7/15	第9章 部門別計算 33節 第10章 費目別計算の応用 34節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第14週 7/22	第10章 費目別計算の応用 35節 第11章 本社工場会計 36節	講義 問題演習	誤答問題の再確認
第15週 7/29	まとめ	講義 問題演習	誤答問題の再確認